

2019. 7. 28. 聖霊降臨節第8主日礼拝式説教

ルカ福音書講解説教

聖書：ルカによる福音書4章1-13節

『悪魔と誘惑』

主イエスが福音を宣べ伝え、公の活動を始めようとするその最初にしたのは、洗礼を受ける、ということでした。その時、主イエスが祈っていると聖霊が鳩のように降り、「あなたはわたしの愛する子」という声が語られました。主イエスは神の子だ、ということが天から宣言されて、その神の子の歩みには、聖霊が降り、随伴する、そのことが3章のところで語られました。

ところが、不思議なことにその聖霊が、主イエスを荒れ野へと導き、悪魔からの誘惑へと、引きまわした、と今日の聖書箇所にはあります。あらためてこの聖書箇所を読むと、どうしてなんだろうと思います。悪魔の誘惑など受けずに、洗礼を受けた後、ただちに16節にあるように、会堂に入って福音を宣べ伝えていかれたらいいのに、とも思います。けれど、聖霊は主イエスを荒れ野に導いたのです。そして40日にわたって悪魔の誘惑の中に引き回す。つまり誘惑を受けることはアクシデントのようなことではなく、避けて通ることのできないような、どうしても受けなければならないことだった、ということです。

なぜ悪魔は主イエスを誘惑したのか。それは悪魔の誘惑、それ自体の中に、その理由が隠されています。

最初の問いかけ、それは、「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ。」という問いかけでした。主イエスは聖霊に引き回されて荒れ野にいた40日間、悪魔の誘惑を受けた。それだけでなく、何も食わず、飢えの中にあつた。つまり限界状況にあつた。そこで悪魔は問いかけたのです。「神の子イエスよ、お前は人間となって、生身のからだを生きている。そして今、空腹、飢え、渇きの中にあることがどんなことか、身をもって知らされている。人間にとってまず飢えが満たされなければ、神も信仰もあつたもんじゃない。生きるということはまず第一に食べることであり、そのためのお金だ。だから、もしお前が神の子なら、この石をパンを変えてみろ。本当に苦しんでいるとき、一番必要な食べ物、お金、もの、それを出してやれば、人々は黙っていてもついてくる。さあ、石をパンに変えてみろ。」

何と悪魔の誘惑は説得力があることか。実際、もし教会に来たら、世の難病、瀕死

の重病人がたちどころに治るなら、教会は人であふれかえり、今頃大きなビルが建ち、入場整理券が必要になるのです。人間が求めているのは、今自分に必要なものが今そのものとして与えられるということだと、悪魔は知っているのです。神が、人間との関係の中で求められるものよりも、自分が求めるもの、自分たちが求めるものこそが第一なのだ、という思いに心奪われていくことは、信仰の実質的な崩壊なのです。悪魔はかくの如く誘惑する。

二つ目の悪魔の誘惑は、イエスを高く引き上げ、一瞬のうちに世界のすべての国々を見せ、「この国々の一切の権力と繁栄とを与えよう。それはわたしに任されていて、これと思う人に与えることができるからだ。だから、もしわたしを拝むなら、みんなあなたのものになる。」悪魔はこう囁く。「いいか、お前は神の子だというのだが、この世界は、神の支配のうちにあるのではない。現実問題として、この世界は悪魔であるわたしの手の中にある。神の愛がこの世界を動かしているわけではない。さまざまな国の軍事力や、政治的な駆け引きや、権謀術策、経済力、力と力がこの世界を動かしている。それだけでなく、平和だとか、愛だとか、きれいなことを言っているが、人間はみな自分本位、エゴイズムを棄てることなどとてもできない。国と国との争いが絶えないのは、偶然なんかではない。人間と人間の間の葛藤や、軋轢が絶えないのは、偶然ではない。人間はみな自分の中にどうしようもない悪を抱え込んでいるからだ。この世界は神の支配のもとにあるのではない。もっとも別の原理、別の力が支配しているのだ。つまりわたしの支配の中にある。だから、もしわたしをお前が拝むなら、これらの国々の権力をすべてお前にやろう。」

そして三番目の誘惑はこうです。

悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の屋根の上に立たせ、「神の子ならここから飛び降りたらどうだ。というのは、こう書いてあるからだ。『神はあなたのために天使たちに命じて、あなたをしっかりと守らせる。』」

エルサレムは、主イエスの旅の目的地とでも呼ぶべき場所、そこで十字架にかかり、復活される場所、そのエルサレムに悪魔は連れてきて、言うのです。「神の子イエスよ、お前はわたしの問いかけに聖書の言葉で応えた。ならばわたしも聖書の言葉によって問いかける。神がお前をしっかりと守る、といっている。それなら、安心して、ここから飛び降りてみよ。神の言葉に嘘はないのだから、安心して飛び降りろ。人間は所詮神の力などといっても目に見えない力などわかりもしないし、信じもしない。神秘の力の実力を見せるのだ。そして誰の目にもわかる形で神の子である

ことを証明するのだ、証明すれば、人はその力の前にひれ伏すのだ。」

よく言われることですが、地方の小さな町で、小さな教会が何十年と伝道している。だがそこを新たに訪れる人は一年に数人。一方でマスメディアやネットで報道されたことに人々は群がる。一本のユーチューブの動画を100万人以上見ているということも少なくない。教会は伝道の無力感にしばしば襲われる。キリストが神の子であるのなら、目に見える実力を多くの人々の前で、誇示するべきだ。神秘の力をいかに発揮せよ。そして人々が難なく、神を信じるようにしたらいいではないか。悪魔はかくの如く誘惑する。

現在の日本語では、誘惑というのは、よくないことに誘い込む、という意味だけではありません。新しい辞書を引くと、誘惑とは、魅力という語釈が出ています。うーんと唸るような語釈です。語釈というよりも現にそうして使っている、ということです。

誘惑というのは、実際どれもこれも魅力的なんですよ。それもちよっとの魅力なんかじゃない。ものすごく魅力的なんです。悪魔の三つの誘惑はよく読めばわかるように魅力そのものです。だからわたしたちは悪魔の誘惑にそんじょそらの力では抵抗できない。抵抗どころか、誘惑に驚掴みされて、丸呑みにされてしまい、誘惑されたこともわからないくらい跡形もなく、呑みこまれてしまうのです。

キリストは福音伝道の始めに、聖霊に導かれて悪魔の誘惑を受けられた。避けて通れないものとして、受けられた。それはどうしてなのか。福音を伝道すること、福音に生きようとするのは、悪魔の誘惑の中で生きることになるからです。福音に生きようが生きまいが、わたしたちの人生に誘惑はあります。それは一般論としてそうです。しかし、わたしたちが福音に生きようすると、強烈な力で悪魔の誘惑に襲われる。なぜなら、悪魔の誘惑にある通り、この世界は神をどうでもいいものにしようとする反神的な力、悪魔的な力に満ち満ちているからです。

主イエスはこの悪魔の誘惑に対して、すべて、聖書の言葉で応えました。「と書いてある。」と書いてある。「と言われている。」とあるように主は、聖書の言葉で間髪入れずに応えた。「人はパンだけで生きるものではない」「あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ。」「あなたの神である主を試してはならない。」すべての申命記の言葉です。これらの聖書の言葉は、別々のことを言っているわけではなく、すべてはつながり、最終的に一つのことを語っている。それは、「あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ」ということです。そこにこそ、悪魔の力に、悪魔の誘惑に立ち向

かっている力がある。「人はパンだけで生きるものではない」という最初の返答は、当然次の言葉が予想されている。神の口から出る一つ一つの言葉によって生きるのだ、ということです。神の言葉に聞き、神を礼拝し、神に仕える、それ以外には、悪魔の力と対抗することはできないのです。

キリストは誘惑を退け、誘惑と戦うために、聖書の言葉、神の言葉、だけを語った、ということです。最初に申し上げたようにキリストには聖霊が注がれ、同伴していました。つまり聖霊の働きの中、聖書の言葉だけで、その誘惑と向き合った、ということです。とすれば、もしわたしたちがキリストとは同じではないにせよ、自分の生きている場所で、悪魔の巧妙精緻、魅力的な誘惑に襲われたとき、み言葉以外のものを振りかざしても、なんの役にも立たないということです。自分の信念とか、自分の信心の力では誘惑に太刀打ちなど全くできない。

ある人は、わたしたちの生活は悪魔の誘惑の絶えざる連続だから、それと向き合い信仰に生きるためには、聖書の言葉が身につけていなければ、どうしようもない、といました。確かにその通り。み言葉が、身につけてこそ、主イエスのように御言葉で、悪魔に向かうことができる。でなければ、魅力そのものの誘惑に呑み込まれてしまう。しかし、残念ながら、み言葉が身につけている、というには、あまりに心許ないのがわたしたちの実情かもしれません。悪魔の誘惑もリアルタイムにはほとんど気がつきもせず、後になって、やられた一、と気づくことの連続です。

だから、わたしたちにとって大事なことは、み言葉が身につけていない自分をしっかりと認め、真正直に、日々聖書を読み、み言葉に聞くこと、それ以外ではないと思います。悪魔にとって、真におそろしいのは、悪魔の力に抑え込まれても抑え込まれても、聖書を読み、み言葉に聞く、その姿なのです。今日の聖書箇所から、その一つのことを受け取ってください。聖霊はわたしたちにも注がれています。あとは、誘惑に負け続けた自分を後悔することではなく、今日また聖書を読み、み言葉に聞き、神に仕えていくこと、それが大事なのです。

D a t a : 聖霊降臨節第8主日礼拝式説教

讃美 : 前440、後525

新生教会礼拝堂